

神々が宿る神話と湯の町 鹿児島県霧島市



霧島神宮



霧島屈指のパワースポット! 建国神話の主人公である瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)を祀った霧島神宮は、創建が6世紀と古い歴史を誇る神社です。最初は高千穂峰と火常峰(御鉢)の間にある背門丘に建てられたといわれていますが、霧島山の噴火による消失と再建を繰り返し、500年以上前に現在の場所に移されました。

国立公園霧島



霧島山はその山肌を7色に変化させると言われ、「韓国岳」「高千穂峰」に代表される20数座の火山群と、日本でも比較的高い位置にある「大浪池」を筆頭とする6つの火口湖を擁し、世界でも珍しい名所としてその名を馳せています。

霧島温泉郷



天孫降臨伝説の霧島山の懐から湧き出る霧島温泉郷は大小9つの温泉からなり、いずれも標高600mから850mの間に位置し、様々な泉質があり、あらゆる症状に効果があります。付近には、布引滝、千畳敷、霧島最古といわれる岩風呂等の名所があります。

3年連続日本一の 鹿児島ブランド茶 霧島茶

霧島茶は日本の神話にも出てくる高千穂峰(たかちほのみね)を始め、標高差に富んだ大自然豊かな霧島で育てられたお茶です。名前の由来となった鹿児島県の霧島市は霧深い気候、稀にみる標高差、厳しい寒暖の差と年間を通じた冷涼な環境はお茶づくりに最適とされていて、年間を通して品質が高く安心安全なお茶が作られています。



霧島茶のうまい理由①

霧島茶特有の澄んだ香り、爽やかな風味、幾重にも富んだ奥深い味わいは、霧のおかげなのです。霧は天然のカーテンとなって、日光を遮ります。このためカテキンの生成が抑えられ、うま味成分のテアニンが豊富な霧島茶ができます。霧島茶特有の上品な香りも、霧によるものと考えられます。また霧は霜除けにも大きな役割を果たしているのだとか。茶葉は霜に弱く、霜が降りるとダメになってしまいます。しかし霧があることで霜が降りにくい環境を保ってくれるのです。

霧島茶のうまい理由②

霧島茶をつくっている霧島市は、大昔の火山噴火により形成されたシラス台地の上にあります。シラス台地は水はけがよく、天然のろ過システムとなって大変きれいな地下水を生み出します。この地下水がいたるところで湧き水となって出てきて、霧島茶を育てる水となっているのだとか。美しい水、深い霧、標高差が生む厳しい寒暖の差…これらが一体となって風味豊かな霧島茶を作り上げているんですね。

東京駅より地下道で直結



東京駅丸の内南口より徒歩1分



〒100-7090 東京都千代田区丸の内2-7-2
KITTE 地下1階 東京シティアイ
<https://www.tokycity-i.jp>

Google Map QR code

スマホのカメラで読み込んで簡単アクセス!!

